



じぶん未来BOOK

進路活動は必ずワークシートで振り返り 進路と担任が連携し生徒に向き合う

川崎高校 (神奈川県・川崎市立)

取材・文／永井ミカ

1学年担任・進路指導部
中川靖大先生

School Data

創立1911年／普通科・生活科学科・福祉科
生徒数690人(男子270人・女子420人)
進路状況(2016年3月実績) 大学進学86人、
短大進学17人、専各進学78人、就職26人、その他17人

川崎市立川崎高校は普通科、生活科学科、福祉科からなる高校。生徒の進路は、就職から大学進学まで多様である。一方、普通科は2014年4月より附属中学が開設され、併設型の中高一貫校となった。そのこともあり、一般入試を含め大学進学への意欲が高まっている。今後、一層の飛躍が予想される学校だ。

振り返りやレポート作成は 社会人になっても必須事項

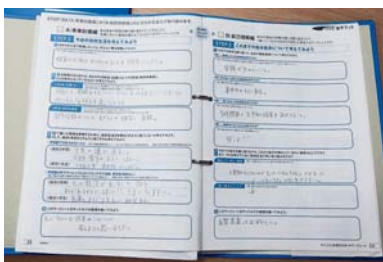
15年度、3年生の理系クラスを受け持っていた中川靖大先生。「文理選択を経て理系クラスに来ているはずなのに、まだ進路に迷い、何をしたいのかわからないという生徒が少なくなかった。もっと早くから視野を広げ進路を考えてもらわないといけないと危機感をもちました」と言う。

翌年、1年生の進路担当となった中川先生は、年間の進路学習を見直した。多くの教材を取り入れてはいるものの、同校は行事や委員会活動が盛んなこともあり、進路学習に使える時間がそれほど多くない。そこで、少ない時間のなか、今ある教材を使って効果をあげるためには何をすればよいかを考え、振り返りを充実させどのような取り組みでも必ず事後にワークシートやレポートをまとめていくことにした。「振り返りやレポート作成は社会人になってからも必要なこと。進路を深く考えられるうえ、まとめる力も付いて一石二鳥になると思います」と中川先生は言う。

進路に興味をもてない生徒や 担任の先生も巻き込んでいく

50人の職業人が登場する冊子『じぶん未来BOOK』の配布は1年生の5月。「有名人が登場したり目を引くビジュアルで、進路にまだ興味をもてない生徒も入りやすい」と中川先生。登場する一人ひとりに対してひと言コメントを書くワークシートや、簡単な仕事診断や自己理解ができるワークシートに記入するのは、それほど難しくなく、生徒も楽しんで取り組んでいるようだ。その後、7月に大学見学に行き文理選択に向かっの学習をスタート。8月にはオープンキャンパスに3校以上行くよう呼びかける。2学期にも仕事や職業、学問について学び、広く考えさせながら文理選択に向かっていく。

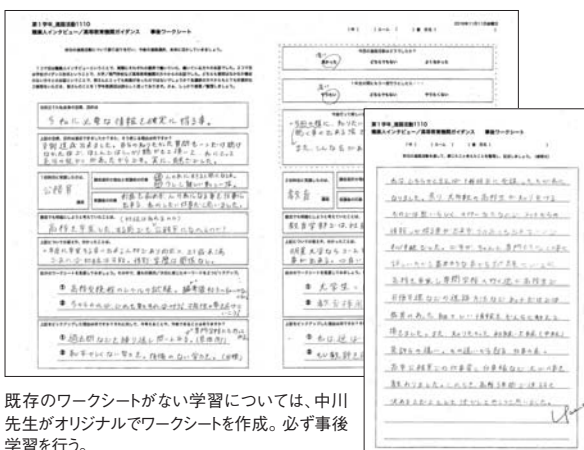
「みらいを拓く進路学習ファイル」



各自がすべての進路学習に関する記録をファイリングして残し、進路選択や入試などに活かしていく。普段は教室にスペースを設けて保管。面談などで活用している。

職業人インタビューのワークシート

ダウンロード可



既存のワークシートがない学習については、中川先生がオリジナルでワークシートを作成。必ず事後学習を行う。

ワークシート類がないものに関しては中川先生がオリジナルで作成。進路学習・行事すべてで振り返りを行っている。そして、ワークシート類はまず進路指導部で回収し担任に戻す。「その際、生徒についてほめたり情報を共有することで、担任の先生と連携するよう心がけている」そうだ。また、生徒のオープンキャンパスのレポートを文化祭で展示。投票でグランプリを決めて表彰式を行うなど、進路学習に興味をもてるような工夫もしている。

「進路学習が好きになったり、早く大学の資料を取り寄せて検討を始めたという生徒の声も。そして、例年より理系選択が少し増えました」と中川先生。この学年は早めに進路を絞り込めそうな手応えを感じているようだ。